

# 鉄道で栄えた街『京橋』の観光活性

西本 広光

## 【目的】

大阪では昔から誰もが知っている京橋、J R大阪環状線や京阪電車が目に浮かぶ大阪のヒガシとも呼ばれる玄関口である。駅も街も昭和の匂いが漂うエリアであるが、昨今、大手旅行者や地図業者が発刊する観光ガイドブックの記事、紹介からその存在が外れつつあり、観光で大阪へ来る旅行客も京橋への訪問、滞在は少ない。地元大阪でも疎遠になりつつあると思われる。市内キタ、ミナミ、天王寺地区でのあいつぐ大型商業施設・街開発やU S J、海遊館といったメジャーなレジャー集客施設に目を奪われがちであるが、大阪の色が濃く、大阪ヒガシ地区の拠点として関西でも有数の鉄道ターミナル駅である京橋の街が賑わい、周辺の観光エリアの起点となって一体化していくことが、ひいては大阪観光の活性化に繋がると考え、同地域の活性化に向けた提言を本研究の目的とする。

## 【内容】

元々、京橋とは江戸時代に大阪城北西詰めに架橋された公儀橋であり、京橋駅から約2キロメートル西に離れた場所に存在する。現在、京橋と呼ばれるエリアは鉄道敷設によって命名されて栄えてきた街である。研究はまず、京橋駅周辺及び近隣の観光及び飲食、ショッピングエリアなどを考察して京橋の魅力を確認する。又、京橋は大阪における人気観光地である大阪城に近いのに、観光活性のアドバンテージを十分活かしていない。例えば京橋から大阪城が見える場所は、一部の建物の上階を除いて多くはなく、また大阪城を訪れる人々の最寄りの駅とは言い難いのが実状である。以上を踏まえて、京橋周辺から南へ大阪ビジネスパーク、そして大阪城につながる一帯を見て歩き、今後考えられる計画や自分なりの想いを含めて、鉄道及び行政、民間、観光関係者の皆様に、これからの京橋の観光活性化の提言を行う。

## 【結果】

現在、J R西日本が計画を進めている“大阪環状線改造プロジェクト”や“おおさか東線の新大阪駅方面延伸建設”などは、まさにエリア活性化への追い風となる。何よりも京橋は鉄道で栄えた街である。京橋周辺街スポットだけの観光活性は難しいが、今後も鉄道、駅施設を含めた再開発により、過去定着しなかった大阪ヒガシの呼称でなく、京橋の名前をブラッシュアップさせて、京橋を起点に特に大阪城周辺に至る街作り、観光活性化につなげて欲しい。

## 1・はじめに

大阪では『きょうばし』(尻下がり)、東京では、『きょうばし』(尻上がり)。大阪の京橋は鉄道で栄えた街であり、全国でも有数の交通ネットワークを持つエリアであるが、エリア呼称の京橋と現在ある橋とは離れた位置関係にある。明治時代にJ R大阪環状線の前身である大阪鉄道城東線の駅として、現在の位置に京橋が誕生して繁栄してきた。ただし京橋と言う正式な町名は現在ない。



【図1】京橋の周辺位置図



J R京橋駅



京橋

## 2・京橋周辺について

京橋は昔から大阪の「ヒガシ」とも言われるが、呼称は定着していない。京橋駅周辺の街全体は、鉄道ターミナル駅、ショッピングモールを中心に大阪特有とも言える多くのアーケード商店街が存在し、主に飲食、娯楽店で構成されている。昭和の匂いが漂う街ではあるが、人の往来も多く老若男女で賑わい、大阪市内のターミナル駅としては十分な存在感はある。J R、京阪電車、地下鉄が集まり1日の乗降客数が約50万とも言われ、駅を利用する人数でも、関西では4番目規模の大きな駅である。

街の魅力や観光の起点としてはどのような現状であるかを考察する。京橋駅周辺及び近隣の施設、観光名所としては、少々離れている地区も含めると大阪のヒガシの名前に恥じないくらいの規模は十分ある。

### (1) 集客力、知名度大

①京阪モール、②J R京阪駅前広場、③京橋コムズガーデン、④ダイエー京橋店、⑤大阪城ホール、⑥大阪城公園、⑦大阪城

※集客力は小さいが、知名度抜群としてご存じ、京橋グランシャトービルがある。

### (2) 集客力、知名度中

①京橋駅周辺各商店街(ビギン商店街のレリーフ、真実の口)、②商店街にある大阪のうまいもん、食べもの屋数々、③K i K i京橋、④羅い舞座(らいぶざ)京橋劇場、⑤

Kぶらっと、⑥大阪ビジネスパーク接続ペデストリアンデッキ（雨の日も濡れない）、  
⑦大阪ビジネスパーク、⑧大阪水上バスアクアライナー・大阪城港

（3）集客力、知名度低

①京橋（本当の橋）、②寝屋川、③藤田美術館、④太閤園、⑤大長寺

### 3・京橋の課題

上述した施設、観光名所など一見すると街は活気があって人の往来も多く、後背に観光名所もある現状であるが、取り巻く現実には厳しい。観光地としての紹介としては、現状記載、紹介から外れるケースが見受けられる。大手旅行、地図会社が発刊する『るるぶ』、『まっぷる』といった雑誌から既に京橋単体の案内は消えつつある。かろうじて、『るるぶ』で大阪ビジネスパークや大阪城とのひとくくりの中で、近隣として紹介が散見されたが、取扱内容は極めて小さい。



【図2】情報誌の示す観光案内範囲（例）

単体の街紹介としては近隣の鶴橋（焼肉の街、コリアタウン）、天満（天神橋筋商店街）にも劣る。又、京橋との絵が実に良く似合うJR大阪環状線も老朽化が進み、ようやく新規プロジェクトが始まり改修されているが、京橋の街を支えてきた商店街やダイエーの活気には陰りが見える。若い人は比較的多いものの若者の集客定番であるシネコンや文化公演施設等もない、又、JR東西線、学研都市線が南北を遮り、大阪城が近いながら大阪城が見えない平面的市街、水の流れが少し悪く少し濁った寝屋川あたりは残念なところである。街として整備は停止状態である。

### 4・京橋活性化に向けて

京橋駅周辺は大阪市内の大きな街としては最後まで取り残された未整備エリアであるが、考察の結果、周辺スポット単体での観光活性化は難しいと考えられる。近年人気度上昇の大阪城、今後開発が期待される森ノ宮、玉造地区方面と一体となり、京橋を世間に広くPR・ブラッシュアップしていくことが重要である。京橋観光活性化の鍵は、リニューアルされるJR大阪環状線や大阪城へ向かう、また大阪城から戻るルートの開拓などが不可欠である。目指すは、『鉄道により人を集客し、大阪城が見える最寄りの駅・街、京橋』を提言する。一般市民からも、おおさか東線全線開通後の北方面乗入れや駅の南下・地下化など多くのアイデアが出されている。京橋駅から南方面は比較的休遊地も多く、また大阪城に向けて視界が開けており開発の実現性はある。



駅南方面



京橋から見える大阪城



環状線新型電車予想

【図3】鉄道、街プロジェクト提言、大阪城へ繋がる京橋

まずJR西日本、大阪市、大阪府の関係者へ提言は、上記図3に示すとおり①現在、寝屋川により分断されている南方面へのアクセスとして京橋駅のホームを南へ延伸して大阪ビジネスパーク、大阪城方面への連絡口を設けて便利にする、②大阪淀川北岸のエリアから京橋、大阪市内中心へ直接訪れやすくなるように沿線の地下化で、新線を敷設しておおさか東線と学研都市線、東西線を接続する。電車で京橋へ訪れる人は増えていく、③京橋と言えば何と言ってもJR大阪環状線、電車が似合う街である。南へ延伸した駅舎から次の大阪城公園駅までは、ほんの数百メートル、オープンデッキで連結し、大阪城や電車を見ながらの散策を可能とする。電車が好きな家族連れ、観光客にも十分受け入れられると思う。JR大阪環状線沿線の魅力スポットになる。

そして京阪電車、民間関係者への提言は、④大阪城が見える京橋の街作り、ダイエー京橋店の今後の改修や、天王寺には負けない京阪電車主体のプロジェクトを期待する。

最後に行政、観光関係者への提言は、⑤京橋からは、大阪ビジネスパークや大阪城方面に向かう遊歩道の整備や目立つ案内板、地図看板を作成・設置して欲しい。今後京橋は、大阪北東部の玄関口として観光活性化を遂げていこう。例えば大阪城は京橋方面から向かい青屋門、極楽橋（北口）から入退場したら入場料200円引きするなど、集客を意識したおもしろい企画が目につく。京橋の未来が楽しみである。

【参考文献、引用】

- ・ JR西日本ニュースリリース 2014年12月8日
- ・ るるぶ、まっぷる（2014年発刊号）
- ・ 2014年12月9日大阪市／建設事業評価有識者会議  
（JR東西、学研都市線連続立体交差事業再評価調書見直しについて）